

## スカウト増加の為の団・隊の取り組み

### 1、地域貢献から組織拡充へのヒント 千葉県連盟 八千代第2団 片寄 朗氏

- 1、八千代市 人口 20万人 東京への通勤圏として人口は増加中である。
- 2、団の歴史は45年あり、キリスト教会で 登録人口は86名のうちスカウト48名
- 3、団としての募集活動はしていないが、「親子自然体験活動」を、子供ゆめ基金から年／100万円の支援を受けて、年4回開催している。「ザリガニつり」などを通じてBS活動を知らしめている。
  - ・ 川の学校：ボーイスカウト流ザリガニつり ⇒ 秘密の川にでかけよう！！
  - ・ 森の学校：ボーイスカウト流森のたんけん ⇒ ひみつの森にでかけよう！！
  - ・ 親子の対話を深めるための：ボーイスカウト流いもほり&焼きいも ⇒ ひみつの畑に行こう！
- 4、ボーイスカウトに入ろうではなく、地域にボーイスカウト活動を認知させ、結果 BS に入ってもらおう。
  - ・ 組織の枠を超え、地域の子供の個々の成長につながる、プログラムを提供することが、これからの使命の柱になって来るのではないのでしょうか。
  - ・ 我々が取り組んでいるスカウティングに誇りと自信をもって、スカウト達や地域と向き合っていく
- 5、現在は緊急事態でもあるので、できるだけ早く入団させるには、保護者との人間関係を活用して口コミ活動を行っている。
  - ・ できない理由を積み重ねるのではなく、できる理由を真剣に考えて積み重ねていく
- 6、多勢の親子が参加してくれるのはなぜか。
  - ・ 子供に体験させたいが、どうすればよいかわからない。
  - ・ 入団してくれるのを目的にしているが、入ってくれればありがたい。
  - ・ チラシは10,000枚作成して、学校で配布してもらおう。(教育委員会からは募集活動はダメと言われている。)・・・BSの広報活動はかまわないが。
  - ・ ホームページの活用(更新をまめに行う)・・・訪問者は多く見に来てくれる。動画も作ってる訪問者 D/60人、記事 UP 日は 200名、3年間訪問者 46,000人、文字ではなく写真が良い
- 7、八千代第2団としてやるべきこと
  - ・ 地域への協力、地域からの協力
  - ・ 団委員のベクトル合わせ
  - ・ 美味しいハンバーグを売る。
  - ・ 外部への広報と内部への広報活動(保護者&スカウトへ)

**\* 八千代第2団は、社会、自然や環境の中での様々な活動を通じて、**

**「生きる力」を身に付け、「自ら考え行動し責任が持てる国際社会で**

**活躍できる社会人」を育てます。**



# ボーイスカウト八千代第2団



## あなたもスカウトに!



## 個人の資質を伸ばし、世界に役立つ グローバルな青少年を育てます。

ボーイスカウト八千代第2団は、社会、自然や環境の中での様々な豊かな直接体験をとおして「生きる力」を身につけ、「自ら考え行動し責任が持てる国際社会で活躍出来る社会人」を育てます。

**Point 1** 体験をとおして「生きる力」を身につけます。

文部科学省が取り組んでいる「生きる力」を様々な体験をとおして養います。生きる力とは、知・得・体のバランスのとれた力です。変化の激しいこれからの社会を生きるために、学力だけではなく、豊かな人間性、健康、体力の知・得・体をバランスよく育てることが大切です。子どもたちの生活や学習を豊かにするためには、様々な体験活動が必要です。ボーイスカウトでは、他者や社会、自然や環境の中での直接体験のきっかけづくりを行い、活動をとおして人間性を育みます。ボーイスカウトでは、知識や技能を習得し、それを活用し「自ら考え、判断し、表現すること」により、様々な問題に積極的に対応し「解決する力」「自らを律しつつ、他人とともに協調する力」「他人を思いやる心や感動する心」など豊かな人間性を育みます。

**Point 2** 健全な心と体を培うために。

青少年の自発活動によって、一人ひとりの個性を伸ばし、社会性、自主性、国際性、指導力を身につけます。異年齢の子ども達が少人数のグループに所属し、リーダーシップ、フォローシップを体験をとおして身につけます。ボーイスカウト八千代第2団は1973年に発団しました。八千代市八千代台東にある三愛幼稚園をベースに、年長から大学生までのスカウトが活動しています。

**Point 3** 子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります。

子どもの頃の体験が豊富な人ほど、大人になってのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質能力が高い傾向があるとの調査結果があります。またそうした子どもの頃の体験が豊富な人ほど、現在の年収が高く、1か月に読む本の冊数も多くなる傾向にあるとの調査結果があります。

※ 出典：独立行政法人国立青少年教育振興機構「かわいい子には体験を」



MAIL : [info@yachiyo2.jp](mailto:info@yachiyo2.jp)  
電話 : 090-4677-6307 片寄 (かたよせ)  
ホームページ : <http://yachiyo2.jp/>  
Facebook : <https://www.facebook.com/yachiyo2>



## II、「標準団を維持するために」愛知連盟みよし第2団 伊藤京子・川内和弘氏

1、平成10年スカウト数 40名 ⇒ H30年 118名 …… チャレンジスカウト100プラン

2、スカウト数減少の原因

- ① 活動内容に不満(スカウト・保護者共に)    プログラムに魅力がなく、  
きちっとした集会ができていない
- ② 保護者とのコミュニケーションが不足    活動内容の説明不足、保護者も指導者任せ
- ③ リーダーの資質の問題    活動への取り組み姿勢が悪い    保護者の信頼関係が低い
- ④ 団・隊及び各隊間の一体感が不足    指導者間のコミュニケーション不足  
スカウト活動に対する考え方がバラバラ

3、みよし第2団 再生のため (H10～13年 ⇒ H20年達成)

- ① 団・隊の指導者の資質の向上
- ② 新入隊員募集活動の充実
- ③ 保護者とのコミュニケーション(年4回実施)… 隊ニュース発行
- ④ 隊間指導者の連携強化 (団会議の充実)

4、みよし第2団の募集活動    団の補助者としての保護者にはネッカチーフを与えている。

- ① チラシには、スカウト募集とは書かず、「活動体験をする」ことをアピールする。
- ② 活動体験に必要なことをチラシには記載する。
- ③ 入隊するか、しないか、のフォローをしっかり行う。
  - ・入隊を決めてくる人、入隊を迷っている人⇒タイムリーにフォローしないと連絡が取れなくなる
  - ・保護者との確実なコミュニケーションが必要、特にお母さん。メールの出っぱなしはしない
  - ・次回の活動をタイムリーに案内すること…返事を頂けるまで連絡を続けることを実行。
- ⑤ 募集案内の掲載 (みよし市広報・コミュニティ新聞・公民館地域交流館・ホームページ)
- ⑥ 募集活動のまとめ
  - ・初めてカラー印刷のチラシ作成……写真がきれいでもよかったと、評判が良かったので継続
  - ・気候の良い時期を考慮して、7月、10月の年2回募集活動を実施する。
  - ・BS隊が作った料理を、BVS隊、CS 隊、体験に来た子供たちと保護者を含め約 100 名でおいしく味わうことができ、好評だったので継続をしたい。
  - ・随時体験可能と書いたチラシを公共施設に掲示する。
  - ・ホームページに年間の活動予定を載せて、体験に行きたくなるような対応策を載せる。

対象年齢 : 年長～小学生 (男女)

ふつうの習い事では得ることのできない

『生きるちから』を学びます。

活動体験をしてみませんか? 男の子も女の子もボーイスカウトになれます。

お気軽にご連絡ください。

# ボーイスカウトみよし第2団



対象年齢

年長～小学生

(男女)



ふつうの習い事では得ることのできない

## “生きるちから”



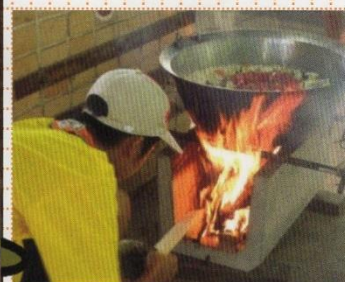
を学びます



活動体験してみませんか？

男の子も女の子もボーイスカウト  
になれます。

お気軽にご連絡ください。



<保護者の方へ>

- ・ボーイスカウトって何？
  - ・どんな活動をしているの？
  - ・費用はどのくらいかかるの？
- など最初は不安かもしれませんが、まずは体験してみませんか？  
質問にお答えします。

随時体験  
募集中



スカウトの活動は世界に広がっていきます！

ボーイスカウトみよし第2団

検索



活動の様子が載っています

<問い合わせ>

ボーイスカウトみよし第2団

団委員長：武田 090-9662-1188